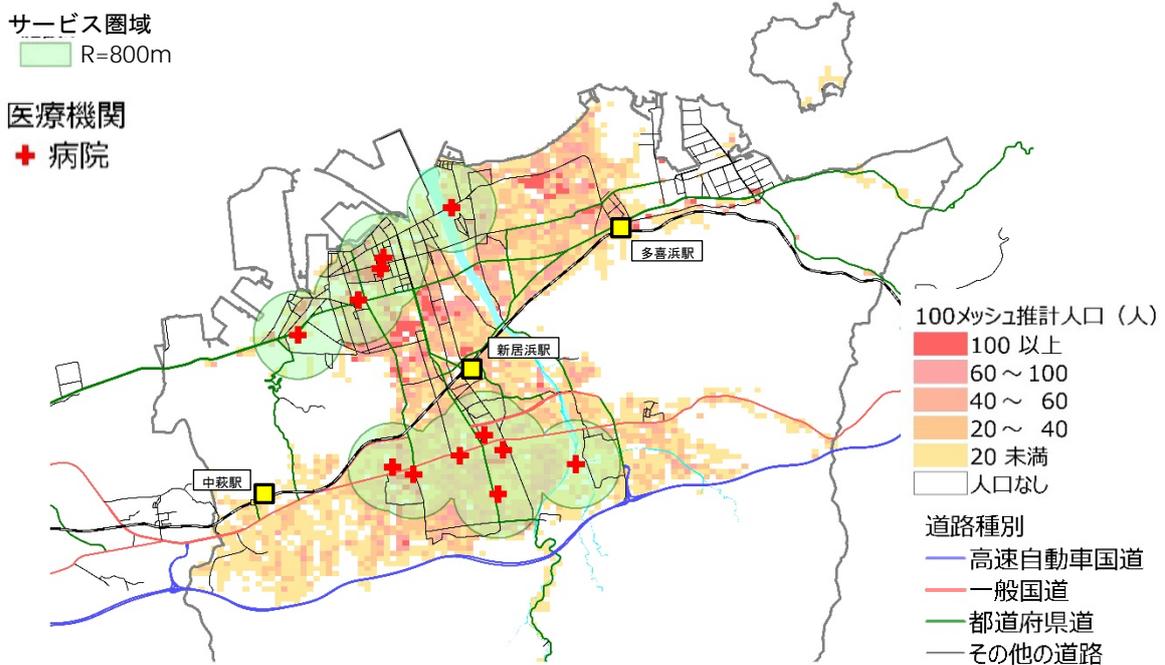


(3) 都市機能施設に関する課題

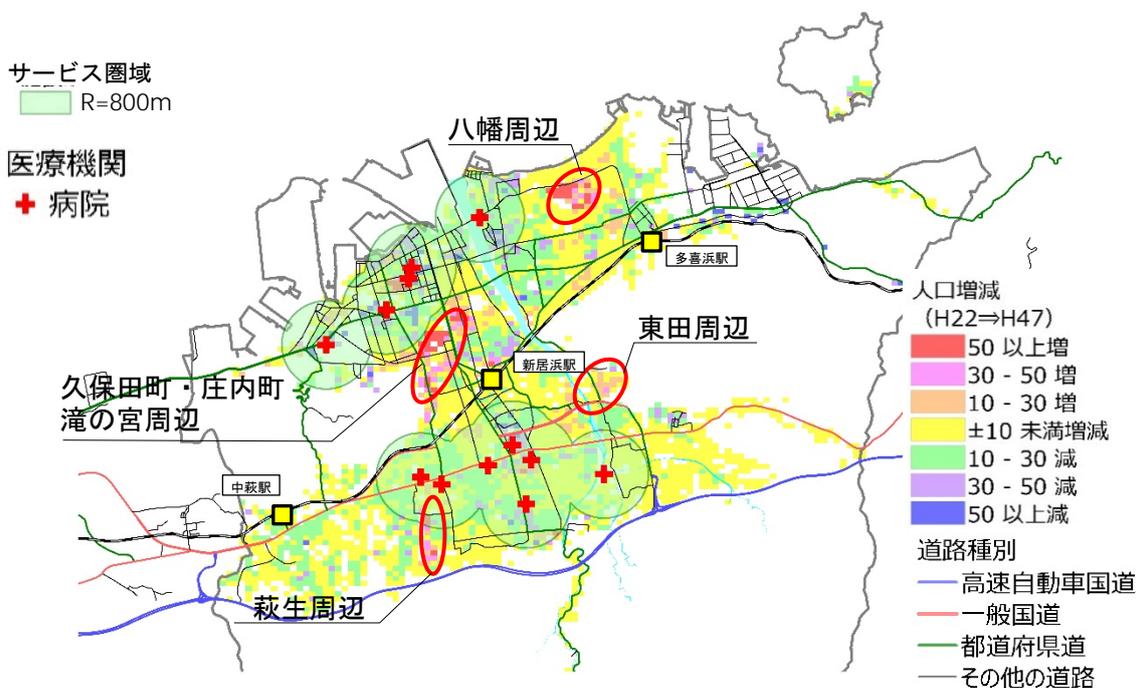
ア. 都市機能施設における将来見通し

病院サービス圏域の人口を平成 47 年についてみると、八幡周辺や久保田町・庄内町、滝の宮周辺などの人口増加が予想される地区でサービス圏外となっています。

図表 病院サービス圏と 100m メッシュ人口(平成 47 年)

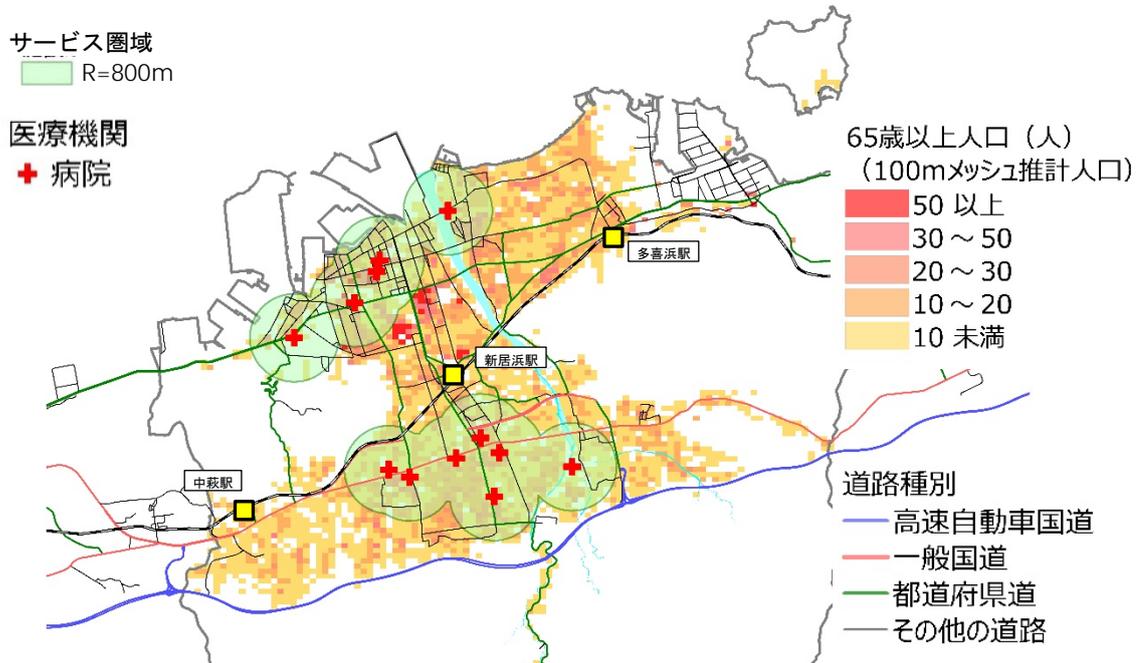


図表 病院サービス圏と 100m メッシュ人口増減(平成 22 年→平成 47 年)

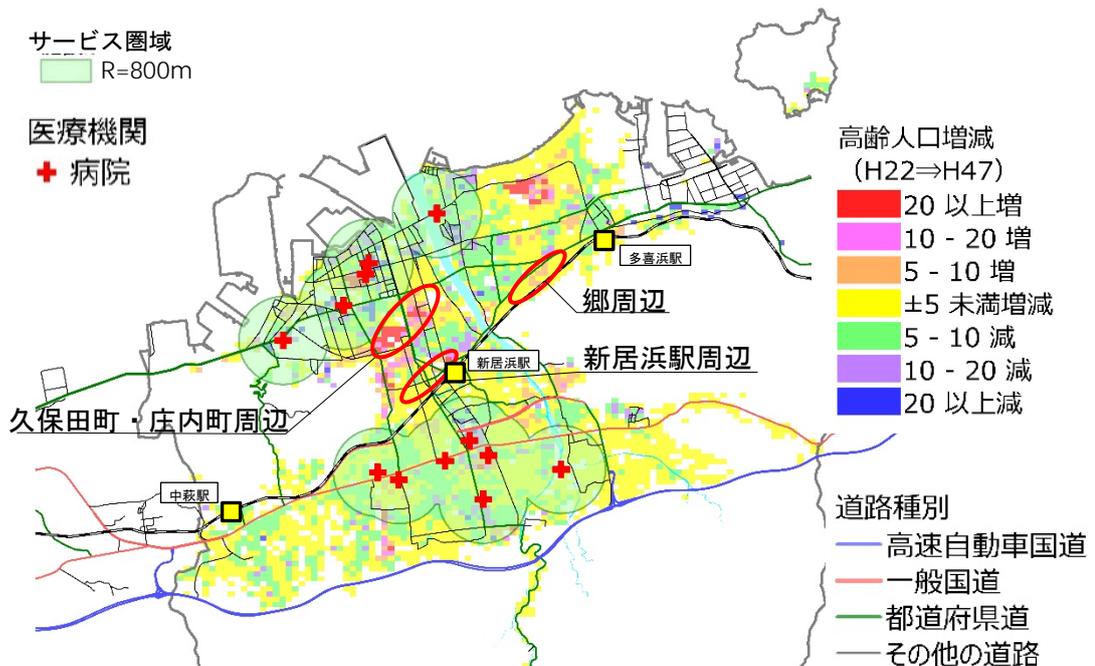


また高齢者についても久保田町・庄内町、郷などの高齢者人口の増加が見込まれる地区でサービス圏外となっています。

図表 病院サービス圏と100mメッシュ高齢者人口(平成47年)

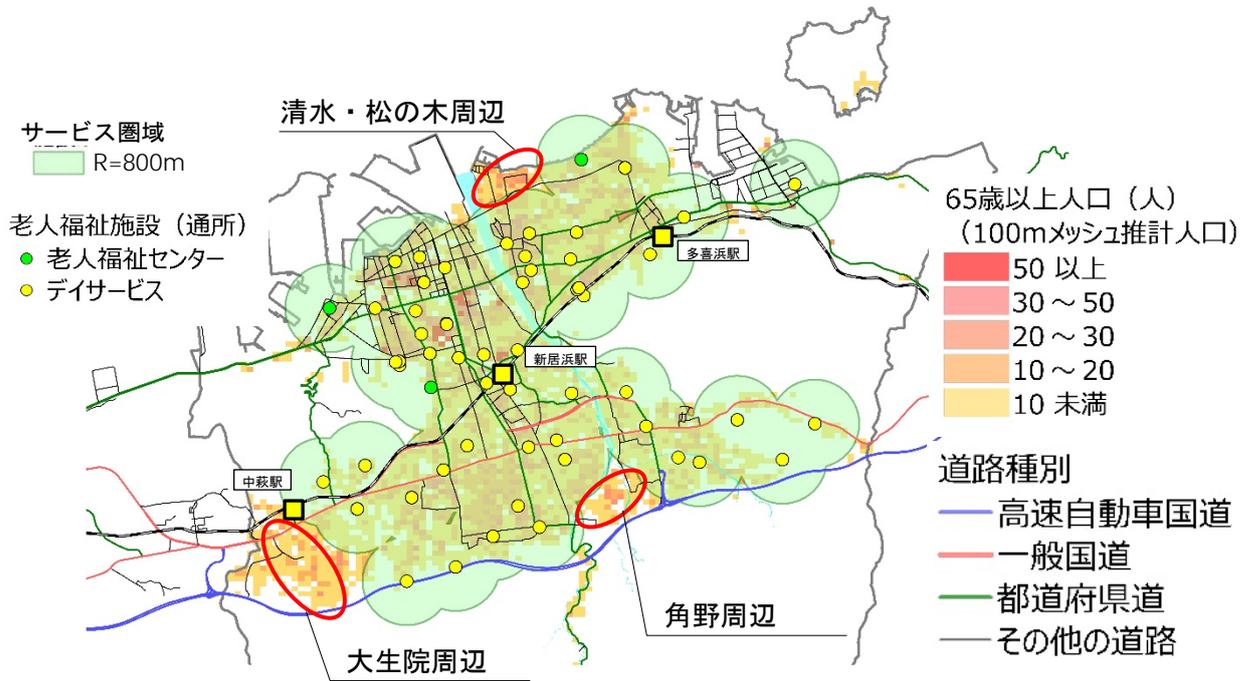


図表 病院サービス圏と100mメッシュ高齢者人口増減(平成22年→平成47年)

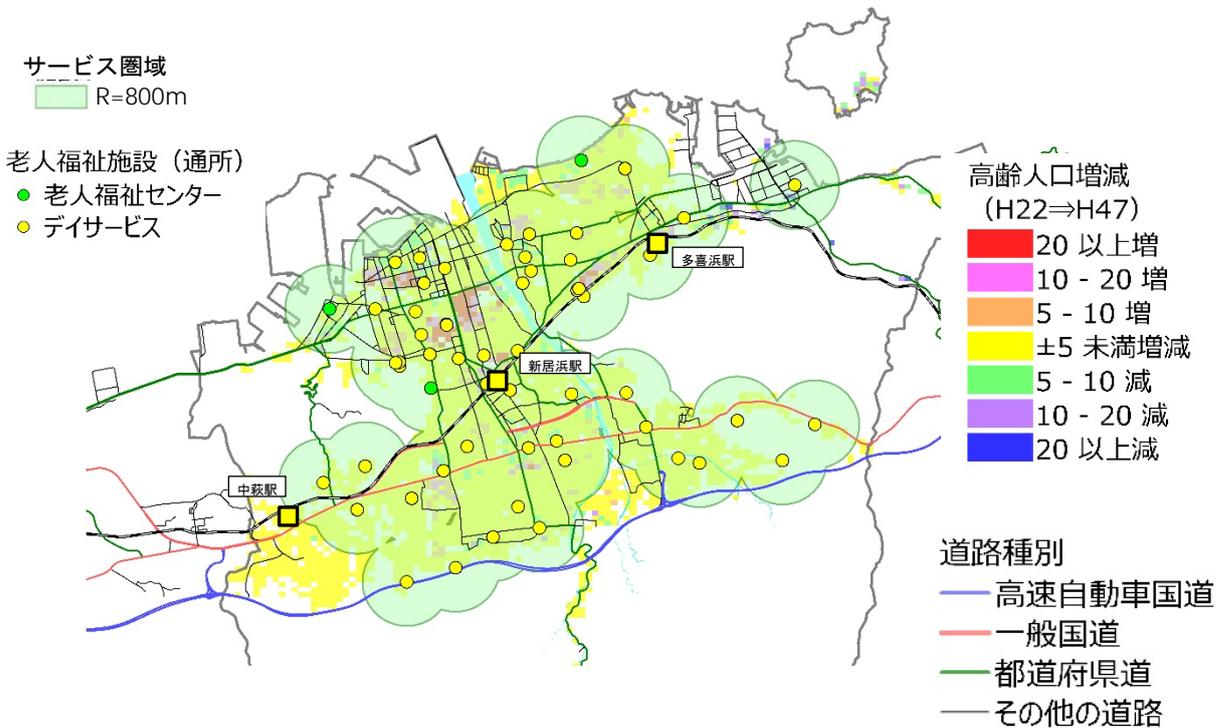


通所系の老人福祉施設サービスについて圏域の人口を平成 47 年についてみると、現状の問題点である清水・松の木町や角野、大生院の周辺でサービス圏外となっています。

図表 老人福祉施設サービス圏と 100m メッシュ高齢者人口(平成 47 年)

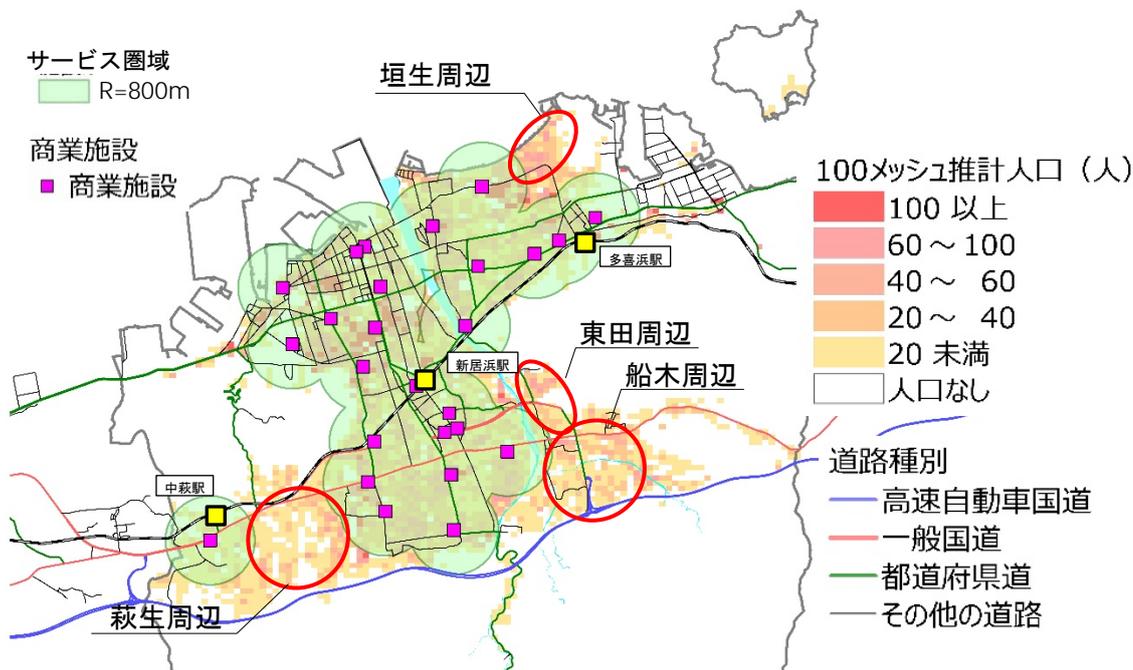


図表 老人福祉施設サービス圏と 100m メッシュ高齢者人口増減(平成 22 年→平成 47 年)

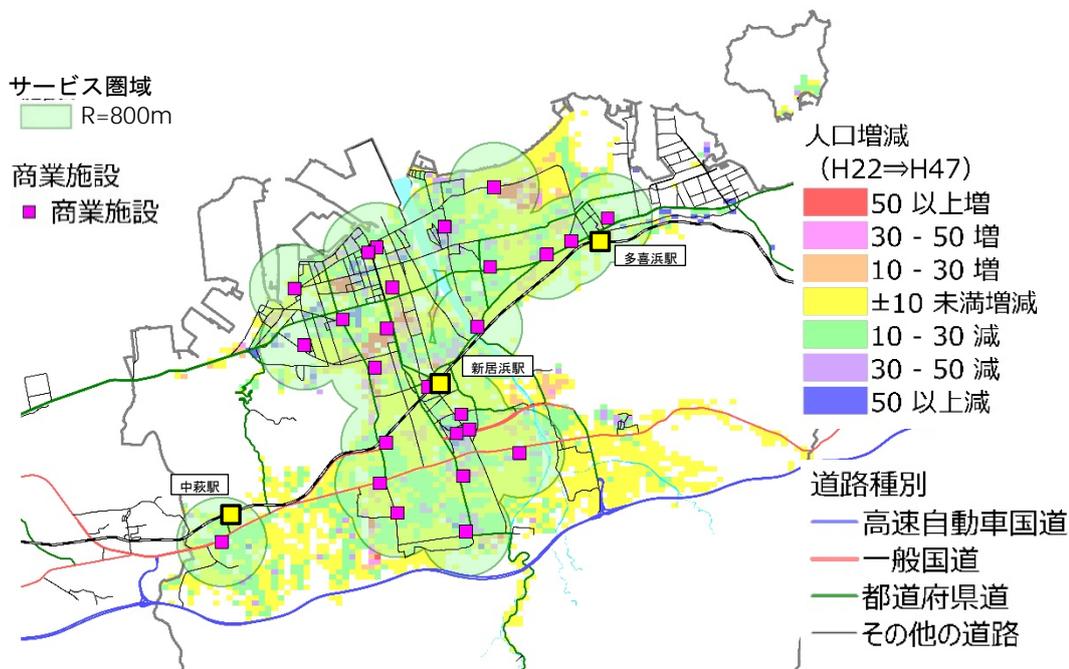


商業施設サービス圏域の人口を平成 47 年についてみると、現状の問題点である比較的人口が多い垣生、東田、船木、萩生の周辺でサービス圏外となっています。

図表 商業施設サービス圏と 100m メッシュ人口(平成 47 年)

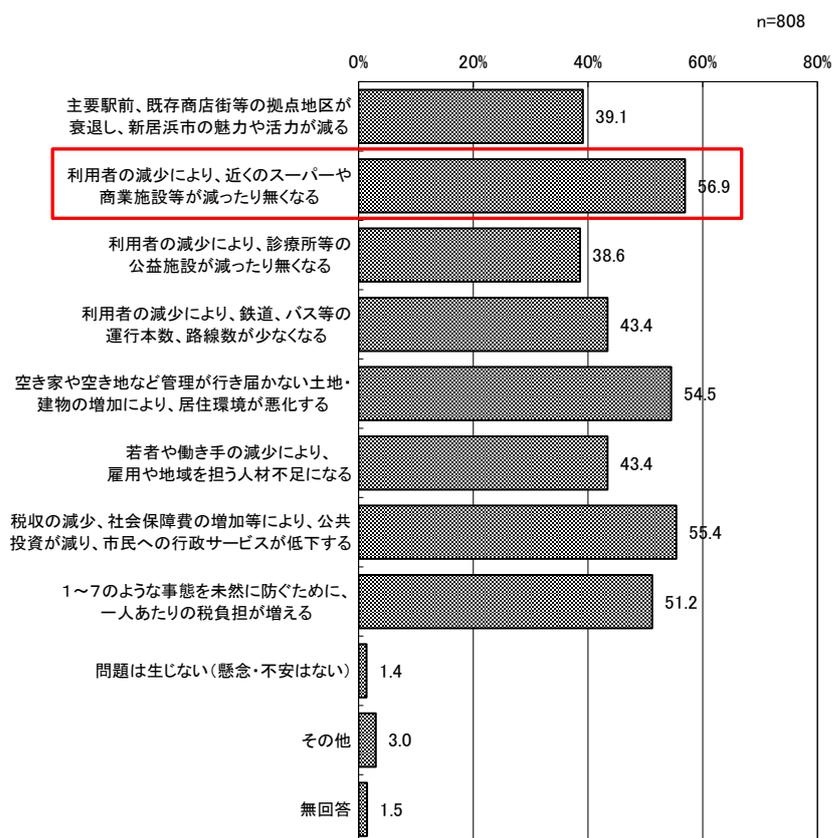


図表 商業施設サービス圏と 100m メッシュ人口増減(平成 22 年→平成 47 年)



市民意向調査では、人口減少・超高齢社会の進行により、予想される可能性がある影響に関して、懸念・不安に感じることとして、「利用者の減少により、近くのスーパーや商業施設等が減ったり無くなる」と回答した人が56.9%と半数以上います。

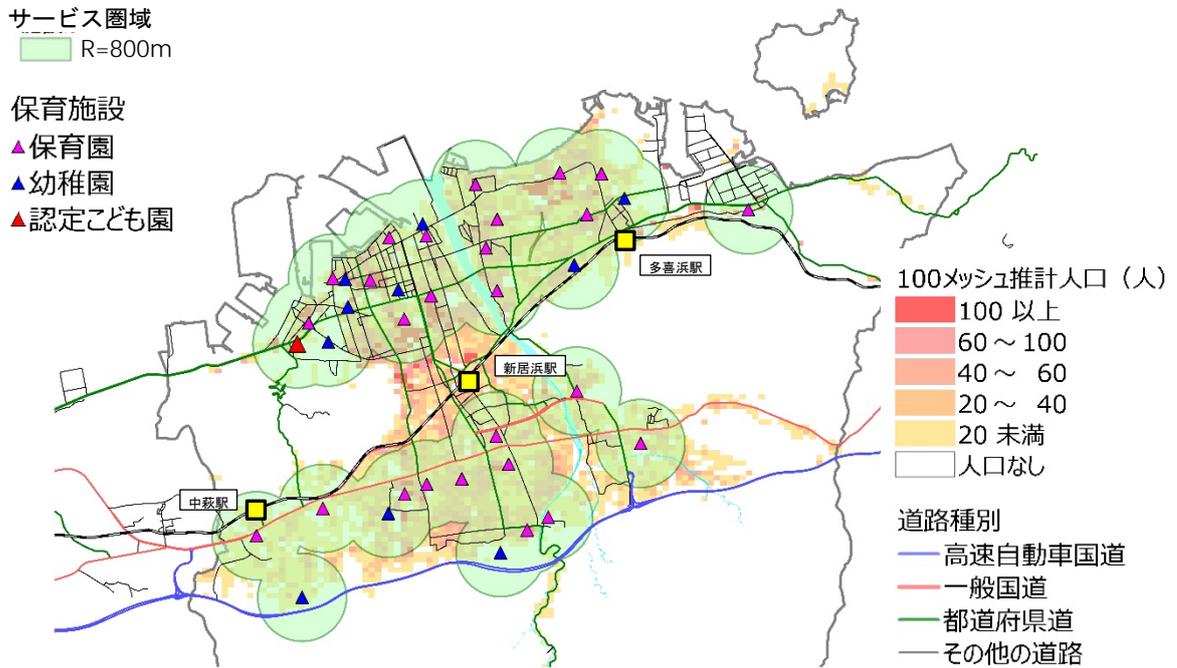
図表 人口減少・超高齢社会の進行により、予想される可能性がある影響に関して、
懸念・不安に感じること



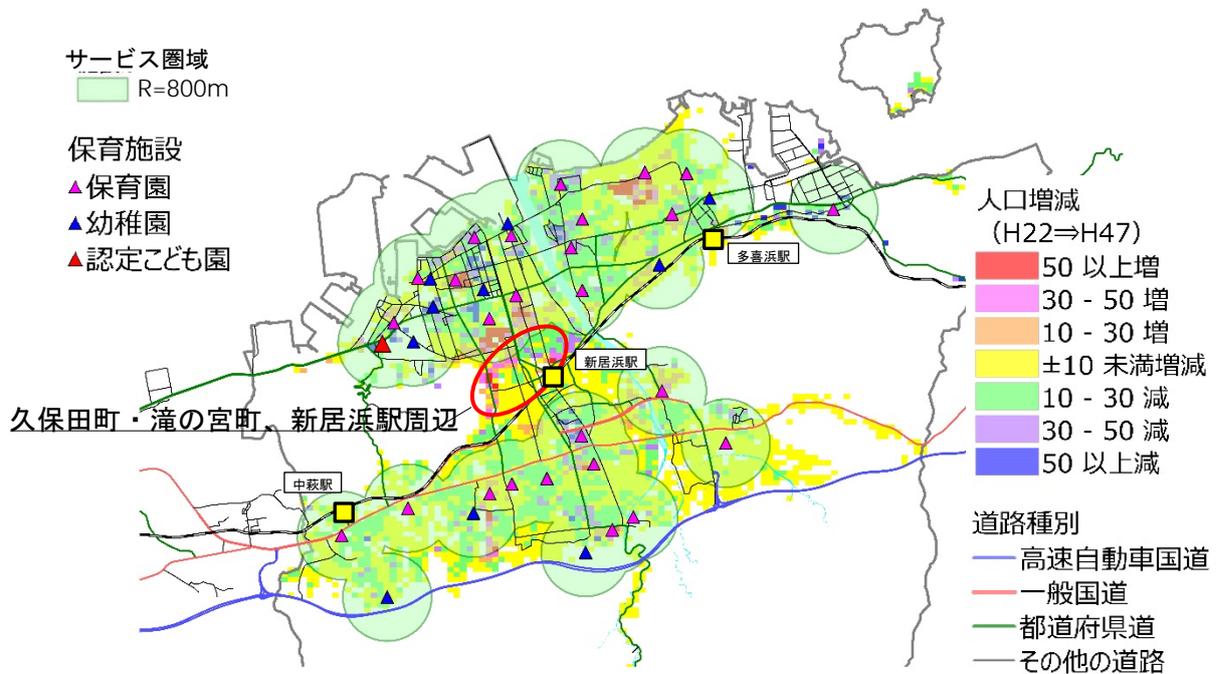
資料:新居浜市立地適正化計画策定に係る市民意向調査 報告書(平成 29 年 2 月)

保育施設サービス圏域の人口を平成 47 年についてみると、子育て世代が増加する久保田町や滝の宮町、新居浜駅周辺のサービス圏外で人口の増加が見込まれます。

図表 保育施設サービス圏と 100m メッシュ人口(平成 47 年)

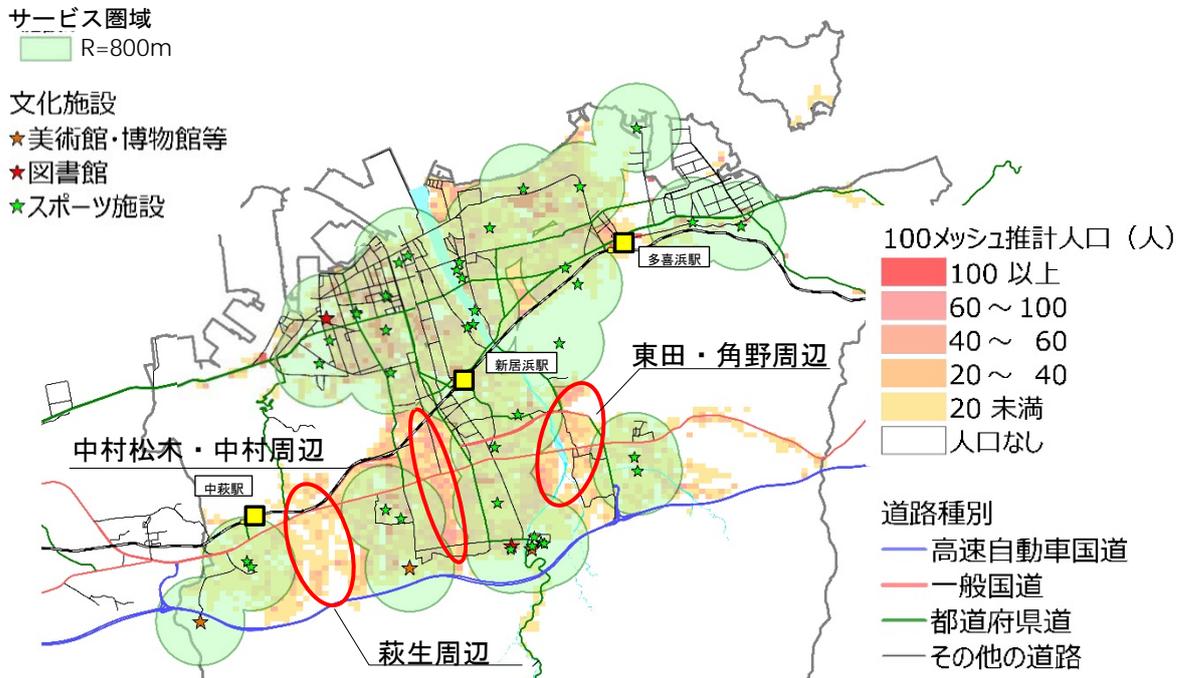


図表 保育施設サービス圏と 100m メッシュ人口増減(平成 22 年→平成 47 年)

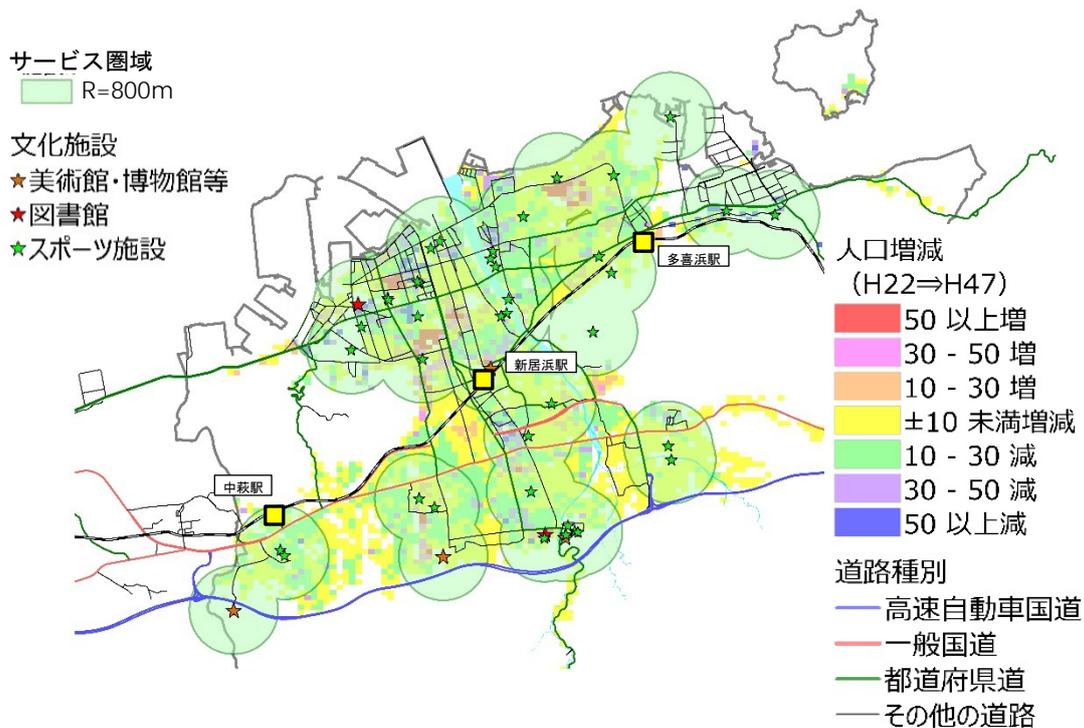


文化施設サービス圏域の人口を平成 47 年についてみると、現状の問題点である新居浜駅南西の中村松木・中村、東田・角野の周辺でサービス圏外となっています。

図表 文化サービス圏と 100m メッシュ人口(平成 47 年)



図表 文化サービス圏と 100m メッシュ人口増減(平成 22 年→平成 47 年)



イ. 拠点における将来見通し

新居浜市都市計画マスタープランにおける都市拠点（JR 新居浜駅周辺地区、一宮町・繁本町周辺地区、昭和通り・登り道沿道地区、前田町周辺地区）と地域拠点（喜光地周辺、JR 多喜浜駅周辺）について、人口集積や機能集積の状況を見ると、以下のようになります。

●JR 新居浜駅周辺地区

- ・本市の玄関口としての役割を担い多くの人が集い、また交通結節点としての機能も有する地区であり、多くの都市機能が集積していますが、20床以上の病院や保育施設が立地していません。

●一宮町・繁本町周辺地区

- ・市役所を中心とした周辺で人口増加が見込まれる地区であり、多くの都市機能が網羅的に立地しており、利便性の高い地区となっています。

●昭和通り・登り道沿道地区

- ・昭和通り、登り道商店街を含む中心商店街周辺において、商業・業務機能の強化を図る地区であり、人口集積が高く、多くの都市機能が集積しています。商業施設が少ないものの、商店街がその機能を補完していると考えられ、利便性の高い地区となっています。

●前田町周辺地区

- ・商業・業務及びアミューズメントが複合した地区として位置付けられ、イオンモールがその機能を果たしていますが、人口集積は低く、都市機能集積も低いため、イオンモールに依存した状況です。

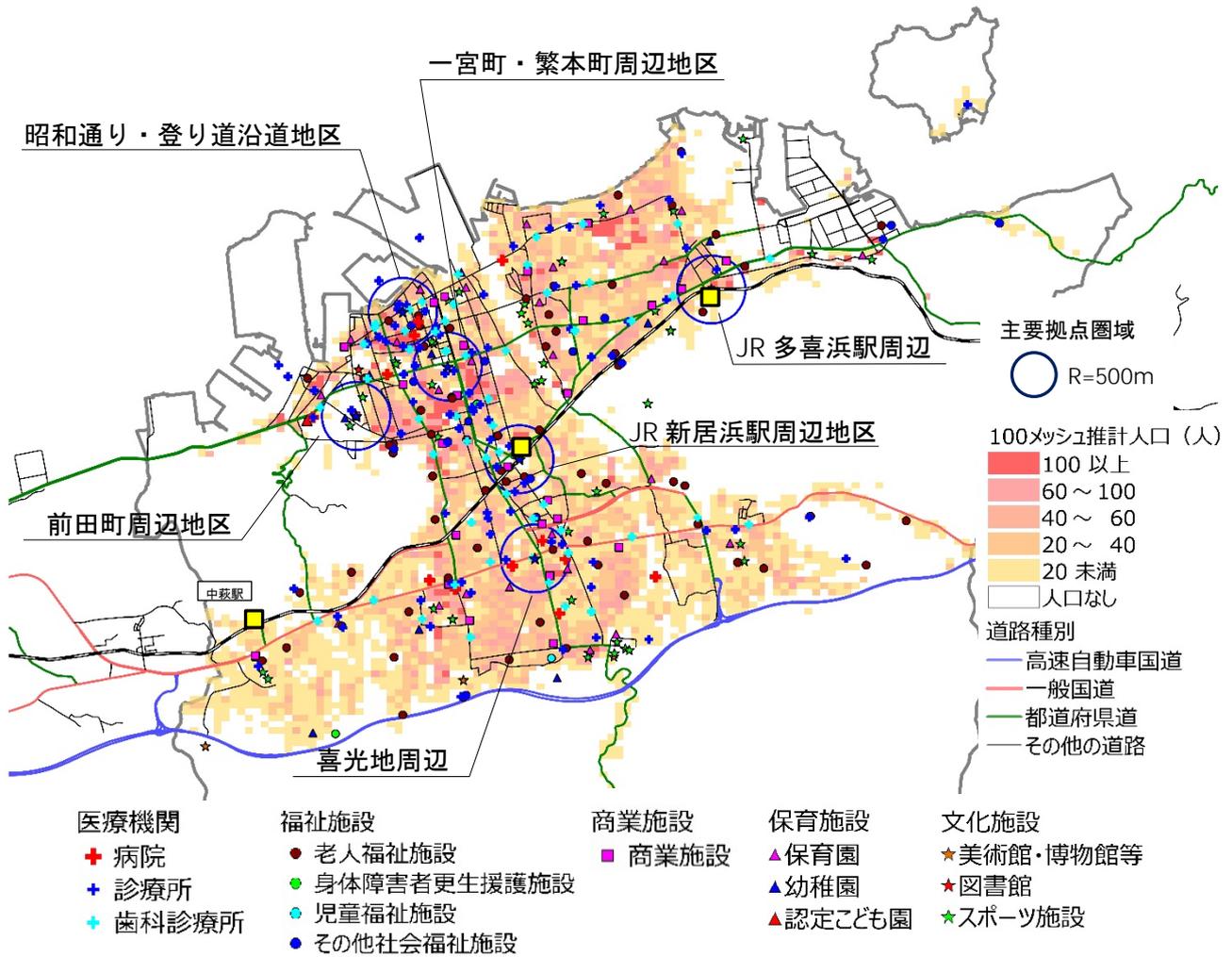
●喜光地周辺

- ・地域の拠点として、生活サービスの提供や近隣商業サービスの提供を図る地区ですが、医療施設や保育施設といった生活サービス機能が集積しており、市内の他地区と比較しても都市機能集積が高く、人口集積も高くなっています。

●JR 多喜浜駅周辺

- ・地域の拠点として、生活サービスの提供や近隣商業サービスの提供を図る地区ですが、医療施設や保育施設といった生活サービス機能が少ないあるいはない状況で、市内の他地区と都市機能集積状況が変わらず、人口集積も低くなっています。

図表 拠点周辺の施設立地状況



主要拠点500m圏域のカバー人口

中心施設		H47推計人口 (人)			
No	地区	総数	15歳未満	15-64歳	65歳以上
1	JR新居浜駅周辺地区	2,264	195	1,115	956
2	一宮町・繁本町周辺地区	2,949	298	1,252	1,397
3	昭和通り、登り道沿道地区	3,048	282	1,705	1,062
4	前田町周辺地区	1,001	52	596	351
5	喜光地周辺	2,341	168	1,281	887
6	JR多喜浜駅	1,471	161	805	508

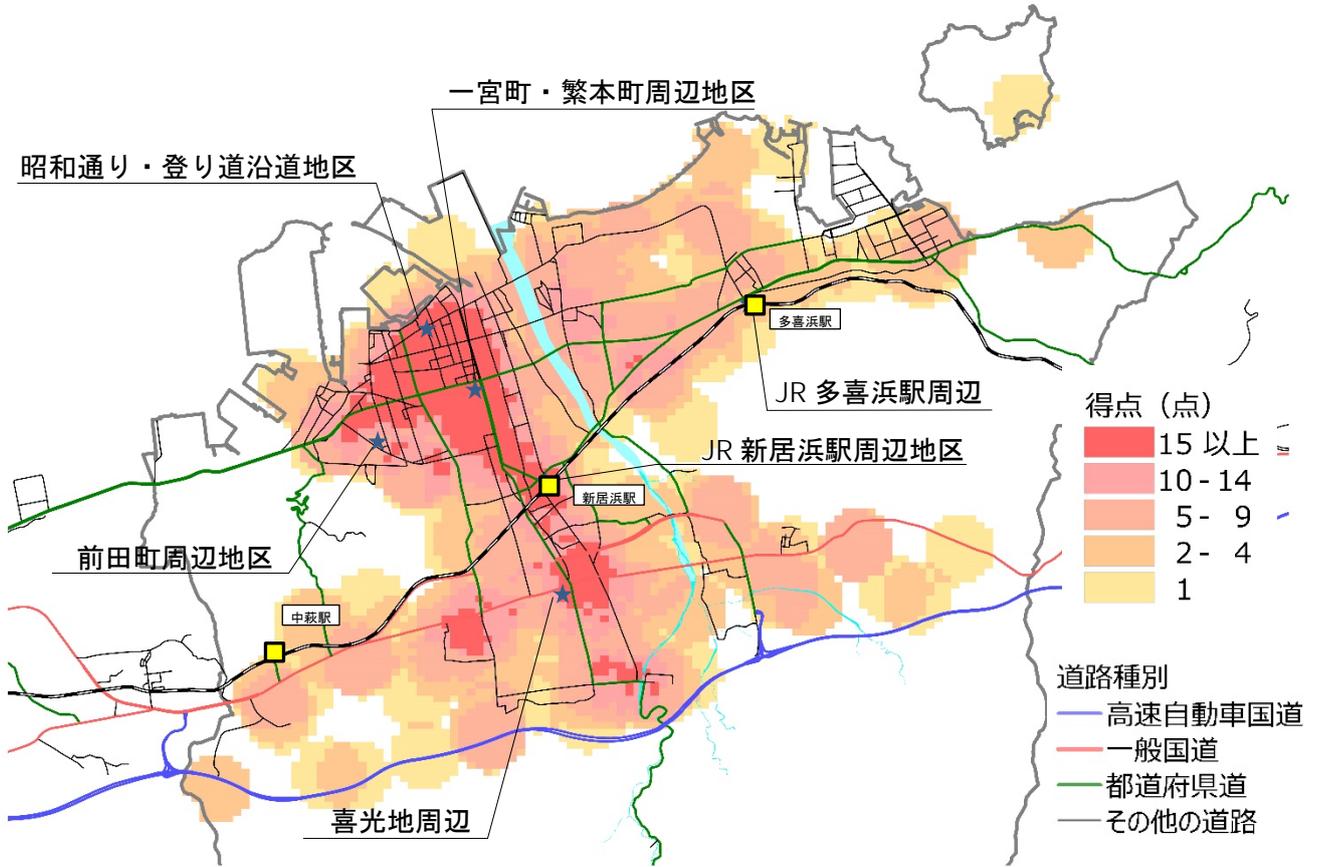
※端数処理のため、年齢別人口の合計が総数に一致しない場合がある

中心施設		H47推計人口 (人/ha)			
No	施設名	総数	15歳未満	15-64歳	65歳以上
1	JR新居浜駅周辺地区	28.8	2.5	14.2	12.2
2	一宮町・繁本町周辺地区	37.6	3.8	16.0	17.8
3	昭和通り、登り道沿道地区	38.8	3.6	21.7	13.5
4	前田町周辺地区	12.7	0.7	7.6	4.5
5	喜光地周辺	29.8	2.1	16.3	11.3
6	JR多喜浜駅	18.7	2.0	10.3	6.5

主要拠点500m圏域の施設数

主要施設		500m圏内施設数					計
No	施設名	医療機関	福祉施設	商業施設	保育施設	文化施設	
1	JR新居浜駅周辺地区	7	6	2	0	1	16
2	一宮町・繁本町周辺地区	9	3	3	3	3	21
3	昭和通り、登り道沿道地区	13	6	1	2	0	22
4	前田町周辺地区	1	0	1	1	2	5
5	喜光地周辺	9	1	2	1	0	13
6	JR多喜浜駅	1	1	2	0	0	4

図表 拠点集積状況



※各メッシュから 500m 圏にある都市機能（医療施設、福祉施設、商業施設、保育施設、文化施設）の数を、1 施設を 1 点として得点を集計。

※20 床以上の病院やショッピングセンター、美術館・博物館・図書館については、市全域から利用者が集まる施設であることを考慮し、重みを 3 倍（1 施設を 3 点）として得点を集計。

※得点が高いほど近隣に都市機能があることを意味し、拠点性が高いと考えられる。

ウ. 都市機能施設における課題

〔現状〕

- 本市においては、診療所も含めた医療施設や福祉施設は、適正に分散配置されており、その徒歩圏人口カバー率は、愛媛県全体と比較しても高い水準にあります。
- ただし、病院に限定してみると、人口増加している中心部地区や新居浜駅周辺地区、垣生周辺においてサービス圏域外となっています。
- 一方、商業施設は、人口が増加傾向にある垣生周辺や萩生周辺、東田周辺において、サービスが享受できていません。また、保育施設においては、郊外地区だけでなく、市中心部の一角を成す新居浜駅周辺がサービスを享受できていません。
- 特に商業系の都市構造指標において、本市は愛媛県全体よりも低い傾向にあります。
- また、郊外部の人口をカバーしている施設については、人口減少により、利用者の減少が予想され、市民意向調査でも施設の存続を不安視しています。
- 新居浜市都市計画マスタープランに位置付けられる都市拠点と地域拠点についてみると、JR新居浜駅周辺地区では20床以上の病院や保育施設の立地がなく、JR多喜浜駅地区では医療施設や保育施設といった生活サービス機能が少ないあるいはない状況で、拠点性が低くなっています。



〔課題〕

●新居浜駅周辺における都市機能の充実が必要

- 新居浜駅は市の玄関口として、今後も拠点性を高め周辺に人口を誘導していくべきですが、病院や保育施設がなく、今後さらに中心部の人口を増加させるためにも、住民のニーズ・特性に応じた生活サービスの拡充が必要です。

●拠点形成に向けた土地利用誘導が必要

- 都市拠点として位置付けられている前田町周辺地区は、イオンモールが地区の拠点機能を一手に担っている状況で、他の都市機能の集積が低い状況です。都市拠点として機能を発揮していくには、イオンモール以外の都市機能を誘導し、拠点性を高めて、周辺に人口誘導していくことが必要です。
- 地域拠点として位置付けられているJR多喜浜駅周辺は、人口集積も地域拠点に求められる生活サービス機能の集積も拠点の位置付けのない市内の他地区と変わらない状況であるため、魅力に乏しく、拠点としての集積が低い状況であることから、拠点形成に向けた都市機能の誘導と人口の誘導を図っていくことが必要です。

●都市機能の維持が必要

- 郊外部においては、都市機能がカバーしている周辺の人口が減少する見込みであり、人口の誘導と併せて維持すべき都市機能の配置を見直す必要があります。